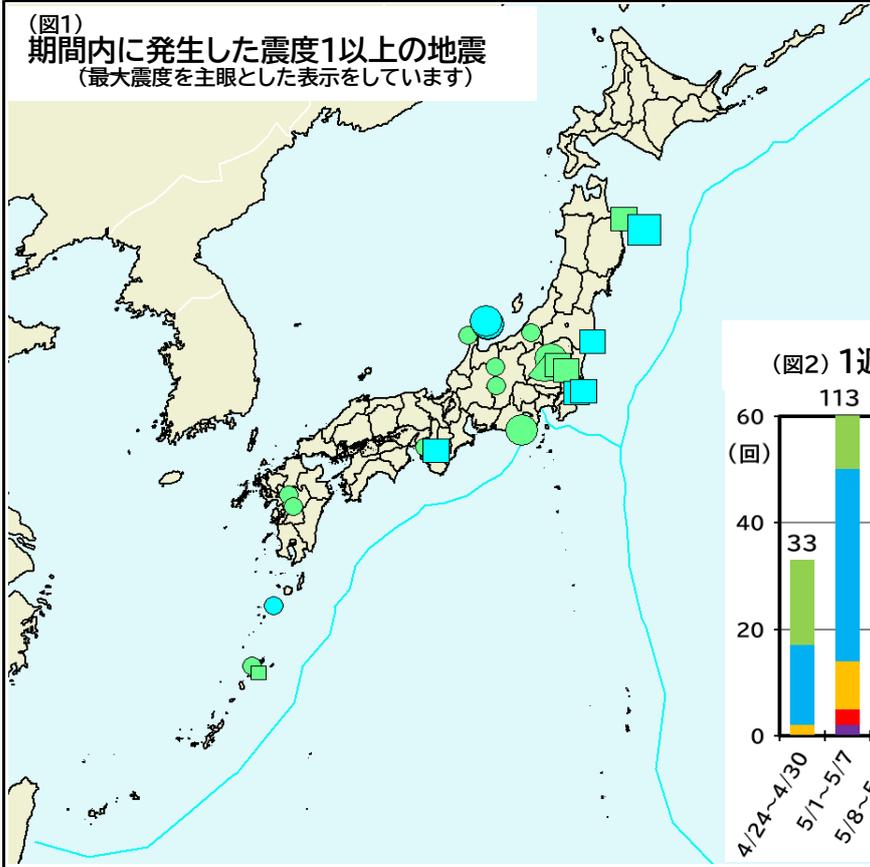


この期間の最大震度は2

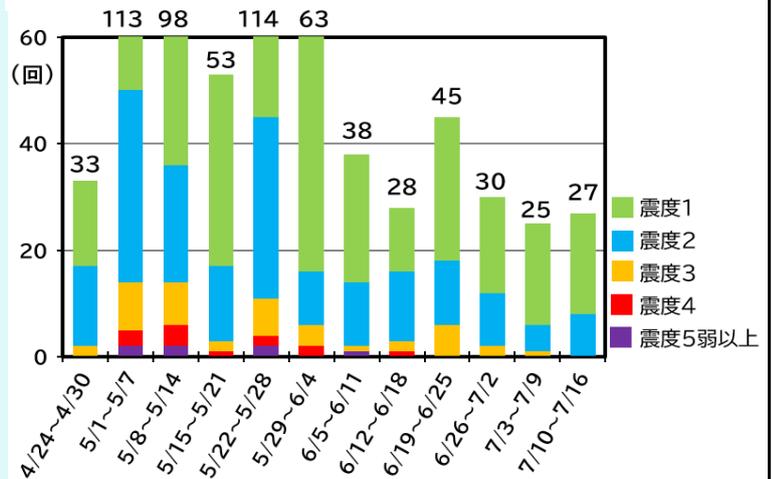
本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典:気象庁震度データベース/地震情報)

(図1) 期間内に発生した震度1以上の地震 (最大震度を主眼とした表示をしています)



最大震度	マグニチュード	深さ(km)
震度5弱以上	○ (大)	0
震度4	○ (中)	30
震度3	○ (小)	90
震度2	○ (小)	▲ (大)
震度1	○ (小)	▲ (小)

(図2) 1週間毎の最大震度別地震発生回数



主な地震の発生状況 (図1,図2参照)

■ この期間、震度1以上の地震が27回発生。最大震度は2。 ■
この期間に発生した地震は震度2以下で、数も少なく穏やかな期間でした。

トピックス

- 新潟県中越沖地震と北海道南西沖地震と日本海東縁部の地震活動 ■
- ・昨日(7月16日)は、新潟県中越沖地震(M6.8)の発生から16年です。最大震度は、新潟県柏崎市や長岡市などで観測した震度6強でした。
- ・この地震では、15人が死亡、負傷者2,345名、全半壊住宅6,940棟など甚大な被害が発生しました。柏崎で32cmなど秋田県から石川県にかけての沿岸で津波が観測されました。
- ・先週水曜日(7月12日)は、北海道南西沖地震(M7.8)の発生から30年です。最大震度は、北海道寿都町、江差町、小樽市及び青森県深浦町で観測した震度5でした(被害が最も大きかった奥尻町では、当時、震度観測が行われていませんでした)。
- ・奥尻島には地震発生後4~5分で津波が押し寄せ、多くの人々が犠牲となりました。現地調査によると、津波の高さは、奥尻島で最大約30mに達しました。
- ・この地震では、死者・行方不明者230名、負傷者323名、全半壊住宅1,009棟など甚大な被害が発生しました。
- ・この2つの地震のほか、北海道から新潟県にかけての日本海側(日本海東縁部と呼ばれている)では、新潟地震や日本海中部地震、新潟県中越地震などM7クラスの地震がたびたび発生しており、その配列は帯状の分布になっています(図3)。
- ・この場所は北米プレートとユーラシアプレートが接していると考えられる場所で、陸地に近い海底で地震が起きるため津波の到達まで時間が短く、津波の被害も相次いでいます。

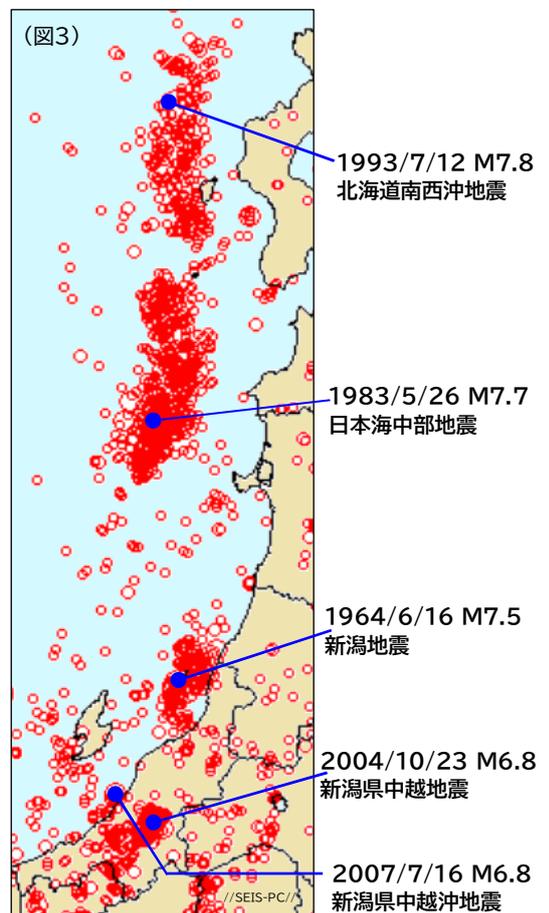


図3:震央分布図 1960/1/1~2023/6/30 M≥4.0